

北川 貴之

東芝ソリューション株式会社

IT技術研究所 研究開発部 ソフトウェア開発技術ラボラトリー

要求獲得プロセスの可視化と検証の自動化

講演概要

要求工学知識体系REBOKの要求工学プロセスは、要求獲得、要求分析、要求仕様化、要求の検証・妥当性確認・評価から構成される[1]。著者の所属している組織では、要求分析、要求の検証・妥当性確認・評価の支援技術を開発している。要求分析の支援には、要求として定義すべき項目をメタモデルとして定義し、要求の定義漏れの防止や均等化に取り組んでいる[2]。要求の検証・妥当性確認・評価に対しては、要求品質チェックシートと呼ぶチェックシートを用いて要求仕様書の定義網羅性を確認している。しかしながら、要求の検証・妥当性確認・評価にあたり、次のような課題に直面した。

課題1：要求獲得プロセスの品質評価のやり方が属人的

課題2：簡単に利用できなければ要求獲得プロセスの品質評価が定着しない

課題1に対する解決策として、メタモデルを用いて成功事例の要求仕様書を分析し「理想的な要求獲得プロセス」（以降、理想モデル）を定義する。理想モデルと対象プロジェクトの要求の定義過程を比較することで品質評価をする手法として定義する。課題2に対する解決策として、要求品質チェックシートを利用した評価ツールを作成する。

上述した解決策を実事例に適用し、課題1, 2を解決できるか確認した。確認の結果、理想モデルと異なる要求の定義過程となっている場合、要求仕様書に不整合があることが発見できた。要求仕様書の不整合が発見できたことで、要求獲得プロセス検証手法は要求獲得プロセスの評価に効果があることが確認できた。作成した要求品質チェックシートを利用した評価ツールにより、要求獲得プロセスの品質評価のやり方を統一することが可能であり、課題1に対して有用である。

既存の取組みである要求品質チェックシートを利用することにより、低コストで要求獲得プロセスの検証を実現した。プロジェクトに高い負荷をかけることなく要求獲得プロセスの品質評価が可能になり、課題2を解決することが出来る。今後は、複数のプロジェクトへの適用を通して、本手法を継続的に改善していく。

【参考文献】

[1]情報サービス産業協会REBOK企画WG, 要求工学知識体系 第1版, pp.31, 2011.

[2] 北川貴之, 橋本憲幸, 吉田和樹, 位野木万里: 要求定義における暗黙知の形式知化手法, コンピュータソフトウェア, Vol.27, No.3, 2010年8月, pp.93-98, 2010.

S1a

7月26日

9:30~10:15

会議室A